

世界ベースで起きる大きな技術の変化。
これを好機と捉え、
新たな成長に挑んでまいります。



はじめに、2年に及ぶ過去に例を見ないほどの深刻な経済不況の期間、当社を支えてくださった全てのステークホルダーの皆様に対して深く感謝申し上げます。世界的金融不安ははまだ全面的に解決する状況には至っておりませんが、当社が参画しているエレクトロニクス産業、とりわけ情報・通信技術分野では、2009年春よりお客様の設備投資が再開され、2010年に入り本格化しつつあります。長期間に及んだ構造改革、また、革新的な技術の出現により、私どもの業界は新たな成長軌道に入ったと思います。当社の2010年3月期の業績は、通期では最終利益を出すには至りませんでした。下期より黒字化し、お客様からの当社製品に対する強い需要により受注が活発化しています。

クラウド・コンピューティングに代表される新たなネットワークインフラとともに、新型情報端末、スマートフォン等、新興経済圏を含めた世界ベースで半導体需要を喚起することができる新しいアプリケーションが登場してきました。また、地球環境の負荷を低減することが人類共通の課題として認識され、それを実現する技術として、半導体技術および半導体で蓄積された応用技術が非常に重要になってきております。新たなエネルギーインフラであるスマートグリッド、太陽電池、LED、有機EL等、これらは全て半導体にて培われた技術がキーテクノロジーとなっています。私ども東京

エレクトロングループは、是非こうした市場の好機を活かし、皆様が期待する業績を達成できるよう最大の努力をしております。

最後になりましたが、以上のような業界動向の中で、新しいジェネレーションが将来に向かってダイナミックな経営をするよう、これまで私が行ってきた最高経営者としての舵取りを、2010年4月1日より竹中社長に譲ることを決定しました。私も会長として新CEOをサポートし、株主の皆様、お客様を始めとする全てのステークホルダーの皆様のご期待に沿う経営を強化・推進していきたいと思っております。今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'T. Higashi'.

代表取締役会長 東 哲郎